令和３年度大府市青少年問題協議会　会議録

（大府市青少年問題協議会）

日　時	令和 3 年 9 月 21 日（火）午後 1 時から午後 2 時 45 分まで
場　所	市役所　201･202 会議室
出席者	委　員 ： 笹竹、深谷、馬場、髙木、保坂、佐藤（代理出席）、榊原、鈴置、伊藤、宮島、髙澤、菅原 事務局 ： 内藤部長、間瀬課長、鈴木係長、米山
傍聴人	１名
欠席者	０名

（敬称略）

1. 会長あいさつ

2. 議　題

(1) 青少年の非行防止について

（事務局説明）

【委員】東海警察署は大府市と東海市を管轄するが、大府市は東海市の半分。刑法犯の内容は万引きが多い。軽微な内容。不良行為少年については、令和２年度はコロナにより夜出かける若者が増加したが、令和３年度は落ち着いている。

(2) 令和3年度青少年健全育成推進事業計画について

【委員】若者駅前 PJ に参加することで、市の事を知ることができた。

【委員】若者駅前 PJ について、大学の授業の一環に組み込まれていることに少し違和感がある。楽しく参加できている。

3. 意見交換

（事務局説明）

【委員】意外に子どもはたくましい。暗い顔をしている子は少ない。縮小でも開催されれば、子どもは参加したいと思う。

【委員】入学後の２ヶ月間が休校となり、うまく対応できない子も。子どもから諦めに近い感情「もういいよ」を感じる。コロナ対応に関して、保護者によって、「学校は行かせたくない」という人と、「この程度で部活中止？」という人がいて温度差がある。交流は意義がある。

【委員】自分の子どもは、１年生の時は友達を作る機会がなかった。２年生になって作り始めたが、宣言によってまた交流が減ってしまった。子ども同士の付き合いが下手になっている思う。遊ぶ場所はイオンとかになっている。子ども同士が安心して友達とコミュニケーションをとる場が少ない。公園は近所の目が気になり遊べない。

【委員】若者がこの会議へ参加していることが素晴らしい。学校はクラスターを嫌うが、対面の交流は大事だと思う。プチこどものまちに企業の参画があるとよい。

【委員】民生委員の活動は中止や延期。学校での活動もなくなった。石ヶ瀬会館に遊びに来てい

た小学生はどこに行ったんだろうと心配している。居場所作りが必要と感じる。

【委員】大学は、対面とオンラインの併用をしている。対面も学部ごとで、他学部との交流が少ない。週２回の学校で、残りは家にいるかバイト。大学の制限により、アルバイトでの人とのつながりの割合が大きくなった。バイトの交流が密に。学校以外の多方面での居場所が必要。コロナでこの先どうすればいいのかと不安になる。就活もこのままじゃいけないと言われるが、じゃあどうすればよいのかと思う。質より量でたくさんの居場所がほしい。

【委員】形式にとらわれがちだと感じる。何を学ばせたいのか目的があるはず。大学の先生が zoom をしているが、何故大学で学んでいるだろうと疑問を感じる。形式の継承ではなく、その行事等のポイントを踏まえることが大切。中高生にもその姿勢がいい影響を生むと思う。

【会長】どんなふうに大人は子どもたちと接するべきか。

【委員】だれにも不安はある。その不安を年上とか親とか関係なく共有したい。安心感を生む。

【委員】家にこもると不安になる人もいる。大人が子どもに知らない世界を教えてくれると子どもの世界が広がると思う。

【会長】第一に、苦しい・つらいという気持ちを子どもたちに表現させる時間・場が必要である。「他の子もつらい」ではなく、地域の大人・先生・親等誰でもよいので受け止めてあげる。第二に、不安の表現を共有させる。他の子どもも苦しんでいるという共有化。「自分だけ？」となると、自己否定につながってしまう。Ｐ．１２のアンケートにあるような、生々しい感想を何らかの形で表現させてあげる。そういった一連のことが人の気持ちを落ち着かせる。

【委員】コロナ禍での２学期スタートは悩んだ。協議をして平常実施とした。ただし、学級閉鎖など速やかに実施できる体制としている。